

自発的、自治的態度をはぐくむ学級活動

—小・中学校における望ましい「話し合いの活動」の在り方—

特別活動研究会議

高橋 徹¹

橋谷 由紀²

阿曾 里恵³

川野 佳秀⁴

要 約

現在、児童生徒に「人とかかわる力」を育成する重要性が指摘されている。「人とかかわる力」の育成に関して特別活動への期待は大きい。なぜなら特別活動の目標は、望ましい集団活動を通して豊かな人間性や社会性、自主的、実践的な態度を育成することにあるからである。そのためには学校生活の基盤となる学級において、「話し合いの活動」を中心に学級の諸問題を解決する活動を計画的、継続的に実施することが重要になる。そこで本研究会議では、小・中学校における望ましい「話し合いの活動」の在り方を検討することを通して、児童生徒に自発的、自治的態度をはぐくむことをめざした。

はじめに、児童生徒と教師を対象に「話し合いの活動」に関する意識調査を実施し、話し合いの充実感や学級の安心感が話し合う意欲をはぐくむことや司会・記録を体験することの重要性を確認した。

次に小学1年生から中学3年生までの「話し合いの活動」（事前～本時～事後）で育てたい資質・能力をまとめ、指導の目安となるようにした。実際の授業では、調査から得られた話し合いの課題を改善するための指導を試みた。その結果、児童生徒の話し合いの資質・能力と意欲を高め、認め合える学級集団をはぐくむことが望ましい「話し合いの活動」につながり、その望ましい話し合いの経験を小・中学校を通して積み重ねることで、自発的、自治的態度がはぐくまれることが見えてきた。

キーワード：自発的、自治的態度 集団活動 話し合いの活動

目 次

I 主題設定の理由	113		
II 研究の内容	115	5 授業実践による検証	120
1 研究の方法	115	(1) 授業実践の方法	120
2 望ましい「話し合いの活動」にむけて	115	(2) 小学校の実践（小学1年生）	120
(1) 望ましい「話し合いの活動」の3要素	115	(3) 中学校の実践（中学3年生）	122
(2) 個と集団の関係	115	III 研究のまとめ	126
(3) 自発的、自治的な活動	116	1 研究を通して見えてきたこと	126
(4) 望ましい「話し合いの活動」	116	2 今後の課題	127
3 「話し合いの活動」の調査結果と考察	117	参考文献	128
4 「話し合いの活動」で育てたい資質・能力	118	指導助言者	128

¹川崎市立中原小学校教諭（長期研修員）

²川崎市立坂戸小学校教諭（研修員）

³川崎市立平間中学校教諭（研修員）

⁴川崎市立今井中学校教諭（研修員）

主題設定の理由

1 人とかかわる力と特別活動の目標

現在の子どもたちには、「他者の気持ちが理解できず、思いやることができない」「自己中心的で無責任な言動を繰り返す」など、人とかかわる力が欠けているのではないかという言葉をよく耳にする。

「人とかかわる力」の重要性の認識は、2003年に文部科学省が実施した「学校教育に関する意識調査」の『学校で身につけたい(させたい)こと』の結果にも表れている¹⁾。「人とかかわる力」を育成することに関して、特別活動への期待は大きい。なぜなら特別活動の目標は、望ましい集団活動を通して豊かな人間性や社会性、自主的、実践的な態度をはぐくむことにあるからである。そのためには、特別活動の中心となる学級活動において、自発的、自治的態度をはぐくむことが重要になる。低学年から話し合っただけを友達と協力して成し遂げるなど、望ましい学級活動の体験を積み重ねることによって、自発的、自治的態度や「人とかかわる力」をはぐくむことができると考える。

2 川崎市の教育との関連と「話し合いの活動」に対する児童生徒の意識

2005年3月に策定された「かわさき教育プラン」の重点施策の一つである、「①いのち、こころの教育の推進」の中に、『豊かな人間性や社会性を育成する。』という記述がある。これは、まさに特別活動の目標と重なる部分である。また、川崎市総合教育センターの本年度の研究総括主題は、「豊かな学びをはぐくむ川崎の教育の創造－共生を軸にして－」であり、キーワードは、<「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「学び続ける」>である。この3つのキーワードは特別活動の目標と関連が深い。『共に学ぶ』は「望ましい集団活動を通して」、『自ら学ぶ』『学び続ける』は「自主的、実践的な態度を育てる」につながると考える。よって、川崎の教育の目標を踏まえつつ、川崎の子どもの実態に即した特別活動の指導を通して、「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「学び続ける」子どもたちを育てていく必要があると考える。

続いて「話し合いの活動」に視点を移すと、2005年実施の本市小・中学校教育基本調査²⁾のなかに、「授業の中で友達と話し合ったり、発表し合ったりする学習は好きですか」という設問がある。ここでの話し合いは特別活動に限ったものではないが、学年が進むにつれて「話し合いの活動」を敬遠する傾向が見受けられる。そこで、特別活動における「話し合いの活動」の調査をすることにより、子どもたちは「話し合いの活動」のどこに苦手意識があるのか、小・中学校における指導にはどのような課題があるのかを明らかにしたい。そして、小・中学校のつながりを考慮した上で、「話し合いの活動」の改善を図る具体的な指導の在り方を提案したいと考えた。

3 学級活動における指導の実際

文部科学省が実施した、2004年特別活動実施状況調査(暫定値)によると、全国の小・中学校における学級活動において、十分に満足できる状況にないとの回答は、小学校 44%、中学校 56.5%である。この調査結果からみる限り、残念ながら多くの小・中学校において特別活動の基盤となるべき学級活動が、十分には実施されていないことがわかる。学級活動において重要なことは、学校生活の基盤となる学級での「話し合いの活動」を中心に、学級や学校の諸問題の解決や学級内の組織づくり、仕事の分担処理などにかかわる活動を計画的、継続的に実施することである。しかし、学習指導要領には「話し合いの活動」について細かな内容が示されておらず、指導の指針となる教科書もない。よって、実際の指導方法や内容は学級担任に任されることが多く、計画的、継続的な指導が行われていない場合もあるので、上記の状況調査のような結果になると考える。「なすことによって学ぶ」を指導の基本

1) 文部科学省「学校教育に関する意識調査」2003年

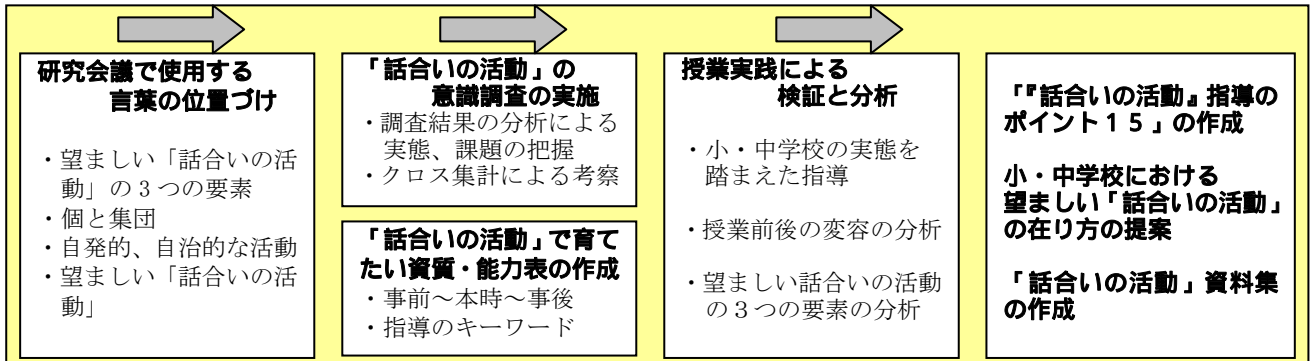
2) 川崎市総合教育センター「平成17年度川崎市小・中学校教育基本調査」2005年

とする特別活動であるが、あくまでも「教師の適切な指導の下」での自発的、自治的な活動である。つまり、児童生徒の自発的、自治的な活動をめざす特別活動だからこそ、教師の計画的、継続的な「話し合いの活動」の指導の在り方を明らかにすることが不可欠である。そして、そのような指導を通して子どもたちに自発的、自治的態度をはぐくみたいと考え、次の研究主題を設定した。

自発的、自治的態度をはぐくむ学級活動
 ～小・中学校における望ましい「話し合いの活動」の在り方～

研究の内容

1 研究の方法



2 望ましい「話し合いの活動」に向けて

(1) 望ましい「話し合いの活動」の3つの要素

川崎市における先行研究を基に、本研究会議では望ましい「話し合いの活動」が成立する3つの要素は、①「話し合いの活動」の資質・能力、②話し合う意欲、③認め合える学級集団であると考えた。①～③を踏まえた望ましい「話し合いの活動」を繰り返し経験することが、児童生徒に自発的、自治的態度をはぐくむことにつながると考える。そこで、①～③の指導の在り方と小・中学校の「話し合いの活動」の在り方の提案をめざすことにする。

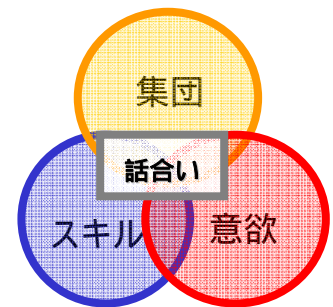


図1 望ましい「話し合いの活動」の3つの要素

(2) 個と集団の関係

望ましい「話し合いの活動」を考える際に、「個と集団」の関係の在り方と望ましい集団活動の在り方考える必要がある。杉田洋は「個と集団」の関係の在り方を「共生の教育」と関連させ、『共生の教育』は、『個』が『私』を主張したり強調したりするだけでなく、集団の一員としての多様な『個』を育て、互いに生かし合い、共に生きていくことにより、よりよい集団を創っていく指導だと考える³⁾と述べている。「個」と「集団」は相反する関係ではなく、個の活動が集団の成長を促す相互補完的な関係であると考えた。また、小学校学習指導要領解説特別活動編には、望ましい集団活動の条件として6つが挙げられている(表1)。望ましい集団活動の条件を満たす「話し合いの活動」を繰り返し体験することにより、個には豊かな人間性や社会性が身につく、学級は認め合える好ましい学級集団へと変容していくと考える。

表1 望ましい集団活動の一般的条件

ア	集団の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること。
イ	活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、それを協力して実践すること。
ウ	一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解していること。
エ	一人一人の自発的要求が尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと。
オ	成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること。
カ	集団の中で、自由な相互交渉が助長されるようになっていること。

³⁾ 杉田洋「初等教育資料」東洋館出版社 2005年2月 p.58

(3) 自発的、自治的な活動

自主的、実践的態度の育成をめざす特別活動で自発的、自治的な活動として挙げられているものは、学級活動(1)「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」、児童会・生徒会活動、クラブ活動(小学校のみ)である。また、杉田は自発的、自治的な活動を「・自分たちの生活を豊かにし、向上させることを目標とする活動 ・秩序ある集団づくりを目標とする活動 ・他人を思いやり、考えなどが異なる他者と共に生活しようとする活動などを通して望ましい人間性を図ろうとする活動である。」⁴⁾としているが、大切にしたい視点である。学習指導要領においても、学級活動(1)で取り上げる問題の条件と、児童に任せることができない問題(自治的活動の範囲外)を示している。以上を考慮し、本研究会議では、教師の適切な指導の下で行われる自発的、自治的な活動を次のように位置づける。

学級・学校生活の充実・向上をめざし、自分たちの力で諸問題の解決のために進んで行う具体的な実践活動

児童生徒の自主性に任せる部分と教師が指導する部分を示しておくことで、伸び伸びとした話合いや実践が期待できる。「先生は自分たちに任せてくれている」と実感することが、自発的、自治的態度をはぐくむことにつながると考える。

(4) 望ましい「話合いの活動」

本研究会議で述べている「話合いの活動」とは、学級活動(1)「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」における話合い(本時)を中心とし、事前や事後の取組も重視する。なぜならば、「話合いの活動」は本時の話合いだけで成立するものではなく、事前(話合いの準備活動)や事後(集団決定したことの実践、振り返り)の活動があってはじめて成立するものだからである。したがって、本時で活発な話合いができていても、それが実践につながらなければ、話し合ったことが無駄になってしまう。意見を出し合った上で、折り合いをつけながら集団決定をした後に、協力して実践することによって充実感や達成感を得られると考える。協力し合った活動による充実感や達成感があればこそ、次の活動にむけての意欲が生まれ、自発的、自治的態度をはぐくむことにつながると考える。

ゆえに、教師の適切な指導の下で行われる望ましい「話合いの活動」を次のように位置づける。(図2)

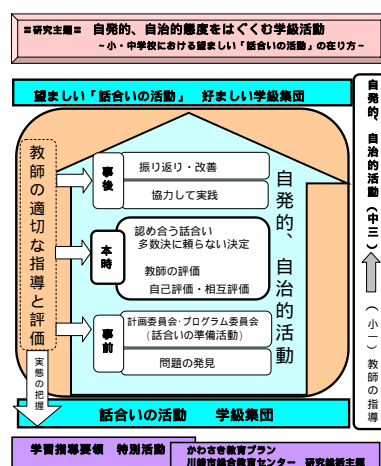


図2 望ましい「話合いの活動」のモデル

事前の準備活動と事後の実践活動を重視し、目標を達成するために、認め合う話合いによる集団決定を行う自発的、自治的な「話合いの活動」

次に、特別活動の「話合いの活動」と、各教科等の話合いとの比較を行う。各教科等の話合いは各教科等の目標の達成にむけて、個人の考えを広げたり深めたりするための話合いであることが多い。一方、特別活動【学級活動(1)】の話合いの活動の特徴は、実践に向けた集団決定をすることである。

さらに、望ましい「話合いの活動」を考える際に忘れてならないのは、学級集団がもつ雰囲気である。小学校学習指導要領解説特別活動編に、「児童の言動は、集団の雰囲気によって大きく左右されるものであり、～」とあるように、教師と児童生徒、児童生徒相互の信頼関係に基づく支持的な雰囲気をつくるのが、話合いにとって大変重要になる。そのためには、日頃から児童生徒の発言のよさをていねいに認める、構成的グループエンカウンターやグループワークトレーニングなど好ましい人間関係をつくるための参加・体験型の活動を計画的に取り入れることなどが有効と考える。児童生徒と教師の信頼関係を基盤とした望ましい「話合いの活動」が認め合える学級集団をはぐくみ、認め合える学級集団が望ましい「話合いの活動」につながると考える。

4) 杉田洋「初等教育資料」東洋館出版社 2005年2月 p.56

3 「話し合いの活動、学校生活に関する調査」の結果と考察

(1) アンケートの概要

■調査名	「話し合いの活動、学校生活に関する調査」		
■調査目的	「話し合いの活動」に関する教師、児童生徒の意識や実態の把握		
■調査時期	2005年6月	■調査方法	質問紙法
■調査対象	教師 194名	川崎市立小学校 11校 (138名)	中学校 5校 (56名)
	児童生徒 352名	川崎市立小学校 4校 (3年生 126名) (6年生 153名)	川崎市立中学校 2校 (3年生 73名)

(2) アンケートの分析と考察

望ましい「話し合いの活動」の在り方を検討する際に重要なことは「話し合いの活動」に対する児童生徒と教師の意識や実態を把握することだと考えアンケートを実施した。

まず、調査結果の分析より主なものを児童生徒・教師ごとにまとめ、次に「話し合いの活動」の重要であると考えられる3点についてアンケートのクロス集計をもとにして考察を行った。

アンケート結果の分析

ア「話し合いの活動」に対する児童生徒の主な意識や実態 (表2)

◆学年が進むにつれて話し合いが好きではなくなる。 小学3年生 (36%) 小学6年生 (46.7%) 中学3年生 (57.5%)	【問1】
◆「話し合いが好き」な理由で最も回答の多いものは、「みんなの意見が聞けるから」	【問2】
◆「話し合いが好きではない」理由で回答の多いものは、「時間が長い」「自分の意見が決まらない」	【問7】
◆「話し合いたい内容」で回答が多いものは以下の通り。 小学3年生「運動会、校内まつり」、小学6年生「学級の問題」、中学3年生「集会」	【問8】
◆「話し合いで決まったことが自分の意見とちがうとき」で回答が多いものは以下の通り。 小学3年生は「喜んで賛成する」、小学6年生と中学3年生は「仕方なく賛成する」 また、「どちらでもよい」という回答が学年が進むにつれて増加している。	

イ「話し合いの活動」に対する教師の主な意識や実態 (表3)

アンケートの考察

◆議題の決定方法は、「教師と児童生徒の話し合い」という回答が小・中学校とも最も多い。	【問1】
◆司会や記録を小学校では輪番制、中学校では固定制で児童生徒が担当することが多い。 小学校：毎回異なる児童 (46.4%) 中学校：決まった生徒 (85.7%)	【問3】
◆「集団決定の際に心がけていること」の自由記述による回答で多かった言葉は以下の通り。 ①「多数決」(37名) ②「少数意見」(26名) ③「納得」(18名)	【問8】
◆「話し合いで困っていること」は回答の多い順から以下の通り。 <全体>①司会記録を指導する時間がない (58.2%) ②話し合う時間を確保できない (47.3%) <小中時>小学校 ①話し合いの時間が長引く (57.2%) ②すぐに多数決をとろうとする (34.1%) 中学校 ①発言が少ない (58.9%) ②すぐに多数決をとろうとする (46.1%)	【問13】

ア 「話し合いをしてよかった」という経験が話し合う意欲をはぐくむ

問1「話し合いが好き」と問6「話し合いをしてよかったことがある」のクロス集計の結果、「話し合いをしてよかった」という経験がある児童生徒ほど話し合いが好き、という傾向が表れた(図3)。また、「話し合いをしてよかった」の内容は、クラスの意見がまとまったとき(46.7%)、話し合いが盛り上がったとき(32.8%)、自分の意見を発言できたとき(31.6%)、であった。このことから、「自分が話し合いに参加し、活発な話し合いが行われ、クラスの意見がまとまり、問題を解決できた」という個人の達成感と集団の達成感を体験できる話し合いを積み重ねていくことが、今後の話し合いへの意欲につながるが見えてきた。

イ 司会や記録を経験することの大切さ

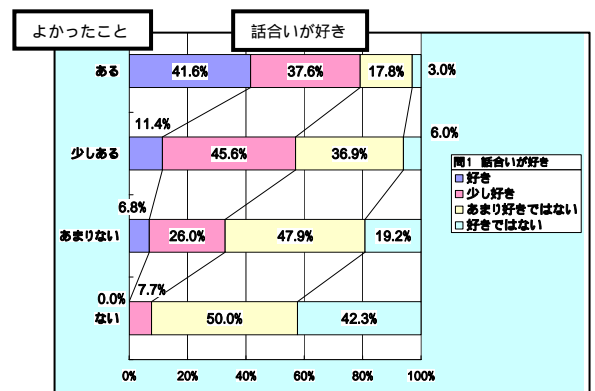


図3 話し合いが好き × 話し合いのよい経験

問 10「昨年度の司会の経験」と問 11「司会をしてみたいと思う」をクロス集計した結果、司会をしたい（思う、少し思う）との回答は昨年司会を経験している児童生徒では 69%、経験していない児童生徒では 37.9%であった（図 4）。この結果から、昨年司会を経験している児童生徒の方が、司会をしたいという意欲があると読み取ることができる。司会の経験がない児童生徒は尻込みしてしまっているということも考えられる。経験することにより司会の方法を理解するとともに、大変さを実感し、司会ではないときでも協力しようとする意識になると考える。よって多くの児童生徒が司会を体験することは重要なことである。その際、司会をやり遂げたという達成感が次への意欲につながるの、事前に計画委員会やプログラム委員会で話合いの方向性などを検討し、児童生徒が見通しをもって司会に臨めるように教師が指導することが重要である。

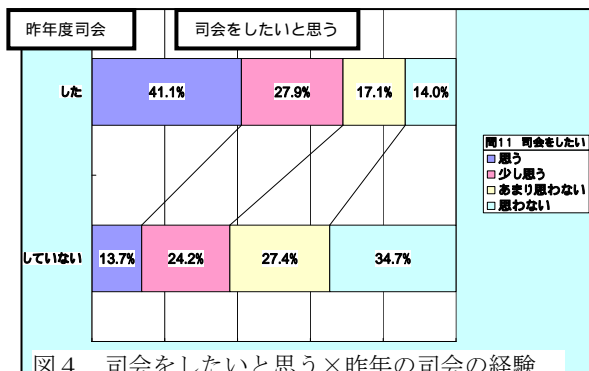


図 4 司会をしてみたいと思う×昨年の司会の経験

ウ 学級の安心感と「話合いの活動」との関連性

問 19「学級にいとほっとする」と問 1「話合いが好き」をクロス集計した結果（図 5）、学級にいとほっとすると感じている児童生徒ほど、話合いが好きという傾向が読み取れる。このことから、教師は児童生徒一人一人が安心できる学級の雰囲気をつくるのが重要である。そのためには、出された意見を笑わないなどの約束を指導し、日常から一人一人の意見を大切に発言することに自信をもつようにすることが大切である。発言することが恥ずかしい、笑われることが心配という不安な気持ちを軽くすることが、本音を出し合える話合いにつながると考える。

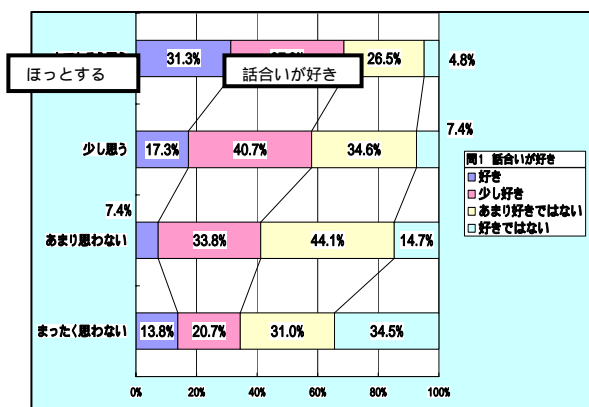


図 5 話合いが好き × 学級にいとほっとする

4 「話合いの活動」で育てたい資質・能力

実際の「話合いの活動」において育てたい資質・能力について考える。「話合いの活動」で育てたい資質・能力を具体的に示すことで、教師は指導すべきことを理解し、児童生徒も話合いで身につけるべきことを理解することができる。そして学習カードに自分のめあてと振り返りを記入することなどにより、話合いの活動に関する成果と課題を認識することができ、自己の向上を図る手段になると考えた。したがって本研究会議では、小学 1 年生から中学 3 年生までの「話合いの活動」（事前～本時～事後）で育てたい資質・能力をまとめることにした（表 4）。作成するに当たって参考にしたのは、国立教育政策研究所の評価規準をもとにして作成された、川崎市教育委員会の『小学校 一人一人の個性を生かす学習指導評価の資料Ⅱ』と『中学校「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価Ⅱ』⁵⁾である。作成の際に心がけたことは、小学校は 2 学年ごと、中学校は 3 年間を一つの段階として育てたい資質・能力を設定したことである。また、指導する際の目安となるように小学校 1・2 年生「教師と一緒に」3・4 年生「教師の助言を受けながら」5・6 年生「自分たち中心に」、中学生「見通しをもち、自分たちで」というキーワードを考案した。育てたい資質・能力の学年やキーワードは目安であり、児童生徒一人一人の「話合いの活動」の経験や実態に応じて指導することが重要である。

⁵⁾ 川崎市教育委員会『小学校 一人一人の個性を生かす学習指導評価の資料Ⅱ（特別活動）』2003 年
川崎市教育委員会『中学校「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価Ⅱ（特別活動）』2003 年

表4 「話し合いの活動」で育てたい資質・能力

学年		1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学生
学習活動		教師と一緒に	教師の助言を受けながら	自分たち中心に	見通しをもち、自分たちで
事前の活動	問題の発見	○教師と一緒に学級の生活の中から身近な問題を見つける。	○学級の身近な問題に気づき、議題を提案する。	○学級や学校生活の問題に気づき、理由をそえて議題を提案する。	○学級や学校生活の問題に気づき、より有意義な学校生活が送れるように提案する。
	計画委員会 プログラム委員会 ・議題の選定 ・話し合いの計画 ・当日の役割分担 ・議題の伝達	○教師と一緒に話し合いの柱などを決める。 ○教師と一緒に当日の役割を分担する。 ○教師が話し合いの議題を伝える。	○教師の助言を得ながら議題を選択し、提案理由に沿った話し合いの柱やめあてなど原案をつくる。 ○当日の役割を分担する。 ○議題や話し合いの柱を伝える。	○積極的に議題集めを行い、議題選定のポイントに沿って、話し合う必要のある議題を自分たちで選ぶ。 ○自分たちで提案理由に沿った話し合いの柱やめあてなど原案をつくり、役割を分担する。 ○議題や話し合いの柱を伝える。	○積極的に議題集めを行い、議題選定のポイントに沿って、話し合う必要のある適切な議題を自分たちで選ぶ。 ○提案理由に沿った話し合いの柱やめあてなど原案をつくり、自主的に役割を分担する。 ○議題や話し合いの柱を伝える。
	議題の共有	○教師の説明を聞き、話し合いの議題と柱を理解する。議題について自分の考えをまとめ、学級活動ノートに書く。	○計画委員の説明を聞き、話し合いの議題と柱を理解し、理由とともに自分の意見を学級活動ノートに書く。	○計画委員の説明を聞き、話し合いの議題と柱を理解する。提案理由を考慮しながら自分の考えをまとめ、学級活動ノートに書く。	○計画委員の説明を聞き、話し合いの議題と柱を理解する。見通しや反論を予想して自分の考えをまとめ、学級活動ノートに書く。
本時の活動（話し合い）	話し合い	【司会・副司会】(司会は教師でも可) ○教師と一緒にマニュアルに沿って話し合いを進める。 ○公平に指名をする。 (意見の偏りがないように)	【司会・副司会】 ○意見を整理し、少数意見も大切にしながら話し合いを進め、集団決定をする。 ○時間を考え、公平に指名をする。	【司会・副司会】 ○問題や意見を整理し、少数意見も大切にしながら話し合いを進め、集団決定する。 ○時間を考え、発言者を記録しながら公平に指名をする。	【司会・副司会】 ○問題をまとめ、意見を整理し、少数意見も大切にしながら話し合いを進める。 ○時間を考え、発言者を記録しながら公平に指名をする。
	意見を出す	【記録(黒板・ノート)】 ○教師がまとめた意見を黒板に掲示する。 ○黒板の意見をノートに書く。 ○決定事項をわかりやすく伝える。	【記録(黒板・ノート)】 ○発言の要点をまとめ、分かりやすく書く。 ○決定事項をわかりやすく伝える。	【記録(黒板・ノート)】 ○発言の要点をまとめ、分かりやすく書く。 ○決定事項をわかりやすく伝える。	【記録(黒板・ノート)】 ○発言の要点をまとめ、意見を分類しながら分かりやすく書く。 ○決定事項をわかりやすく伝える。
	比べる まとめる 決定する 振り返る	【一般の児童】 ○理由とともにはっきり意見を述べる。 発言のルール(挙手→指名→発言) ○友達の意味を聞き、よりよい意見を考える。	【一般の児童】 ○議題からそれないように、理由とともに意見を述べる。 ○友達の意味を聞き、自分の考えと比べながらよりよい意見を考える。	【一般の児童】 ○聞く人が納得するような理由とともに意見を述べる。 ○友達のことを考えて意見を聞き、自分の考えと比べながらよりよい意見を考える。	【一般の生徒】 ○聞く人が納得するような理由とともに意見を述べる。 ○友達のことを考えて意見を聞き、自分の考えと比べながらよりよい意見を考える。
事後の活動	実践	○少しずつ役割や係を担当する。 ○話し合いで決めたことを実践する。	○分担された役割の準備を行う。 ○力を合わせて実践する。	○自分の役割を果たしながら、みんなと協力して、決めたことを実践する。	○集団決定したことに対して、自己目標を設定し、協力して実践する。
	振り返り・改善	○話し合いの内容と実践について、自分や友達の良かったところを見つける。 【計画委員】 ○話し合いと実践を振り返る。	○話し合いの内容と実践について、良かった点や改善点を考えながら振り返り、次のめあてをもつ。 【計画委員】 ○話し合いと実践を振り返り、よかった点と改善点を次の計画委員に引き継ぐ。	○話し合いの内容と実践の結びつきを考慮し、良かった点や改善点を振り返り、今後のめあてをもつ。 【計画委員】 ○話し合いと実践を振り返り、よかった点と改善点を次の計画委員に引き継ぐ。	○話し合いの内容が実践に結びついていか改善点を考えながら自主的に振り返り、今後の学校生活に生かすめあてをもつ。 【プログラム委員】 ○話し合いと実践を振り返り、よかった点と改善点を次の計画委員に自主的に引き継ぐ。

※ 計画委員会・プログラム委員会 「話し合いの活動」の事前に実施する話し合いの計画・立案や司会・記録などの役割分担を行う学級内の組織の名称。

5 授業実践による検証

(1) 授業実践の方法

児童生徒へのアンケートから確認できたように、小学1年生と中学3年生では経験などにより、「話し合いの活動」に対する意識が異なっていると考えられる。そこで小・中学生の実態に応じた指導を実施するため、次の手順で授業を実施した。

「話し合いの活動」の課題把握→「話し合いの活動」の課題の改善をめざした指導→授業実践→考察

小学校では1年生で実践を行った。1年生は話し合いの入門期に当たるので、話し合いの目的を理解してほしい、話し合いは楽しいという経験をしてほしいという願いから次のような指導の工夫を行った。

「①意欲的に話し合いに取り組むための事前指導を行う ②多数決に頼らない集団決定を行う」

中学校では3年生で実践を行った。アンケート結果より、発言が少ないという課題が明らかになったので、意欲的に話し合いに取り組んでほしいという願いから次のような指導の工夫を行った。

「①話し合い前に心をほぐす活動を行う ②少人数による話し合いを行う ③自己評価、相互評価を行う」

このような授業実践を通して、①話し合いの資質・能力、②話し合う意欲、③認め合える学級集団をはぐくむ指導の提案を行い、児童生徒に自発的、自治的態度をはぐくむ手がかりを探りたいと考えた。

(2) 小学校の実践(小学1年生)

活動の実際 (小学1年生) 「話し合いの活動」 事前～本時(話し合い)～事後

活動名 「お楽しみ会を開こう」

活動のねらい お楽しみ会の計画・実践を通して集団活動の楽しさを体験し、協力して自分の役割を果たそうとする態度をはぐくむ。

(1) 事前の活動

活動記録

意欲的に話し合いに取り組むための事前指導

活動の場	活動内容
朝の会	<議題の収集> ◆話し合いたいことを集める。
朝の会	<議題の選定> ◆話し合うことを決める。
休み時間	<計画委員会>話し合いの準備をする。 ◆司会、記録の役割分担 ◆話し合いの流れの確認
帰りの会	<議題の共同化> ◆話し合う議題をみんなに知らせる。 ◆「にこにこかいぎアンケート」を行い自分の考えをもつ。

(2) 本時の活動

活動記録

多数決に頼らない集団決定の指導

～話し合いの順序～

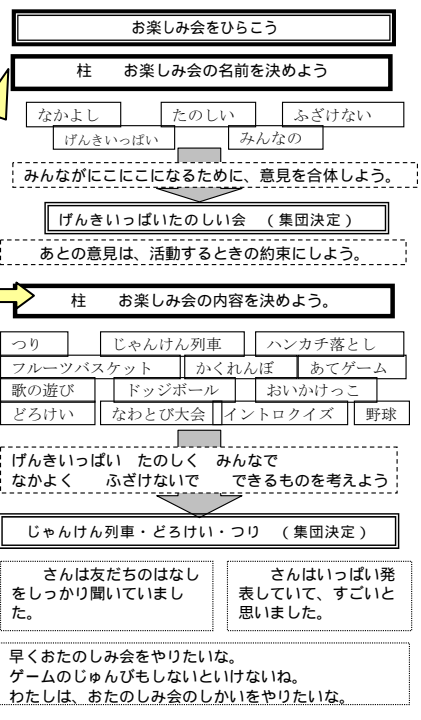
- 1 「白くまのジェンカ」ダンス
- 2 はじめの言葉
- 3 「エビエバ」歌
- 4 司会グループの紹介
- 5 議題と話し合いの柱の確認
- 6 提案理由の発表(提案者)
- 7 話し合いのめあての確認
- 8 話し合い

柱1 お楽しみ会の名前を決めよう

柱2 お楽しみ会の内容を決めよう

- 9 決まったことの確認
- 10 ふりかえりタイム
(今日のびかり)
- 11 先生の話
- 12 おわりの言葉

～子どもの意識の流れ～



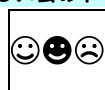
(3) 事後の活動

活動の場	活動内容
朝の会	◆お楽しみ会の役割分担をする。
中休み	◆お楽しみ会の準備をする。
学級活動	◆お楽しみ会を実施する。
帰りの会	◆活動の振り返りをする。

「げんきいっぱいたのしい会 ふりかえりカード」

げんきいっぱいたのしい会は、どうでしたか？
やってみて、おもしろいことをおしえてください。(自由記述4行)
げんきいっぱいたのしい会のやくそくはまもれましたか？

なかよくする
ふざけない
みんなであのしむ



の3段階で表す。

子どもの感想

わたしは話し合いで「つり」に反対したけど、やってみたらすごく楽しかったです。

活動記録 意欲的に話し合いに取り組むための事前指導

話し合いの実態や課題

～児童アンケートより～

問14 発言しようと思うとき

自分の意見に自信があるとき	(56.8%)
話し合う内容に関心があるとき	(41.5%)
少数人数による話し合いを取り入れたとき	(25.9%)

～教師アンケートより～

問11 話し合いの際に行っている手立て(本時)

事前に議題を伝える	(58.7%)
議題に関心のあるものにする	(42.9%)
事前に自分の考えを書かせる	(23.2%)

望ましい話し合い

指導の工夫	話し合いたいことを児童から集め決定する。	事前に議題を知らせ、意見をもたせる(カードに書く)
活動の内容	議題の収集・選定 ・話し合いたいことを集める。(議題ポストなど) ・みんなで話し合いたいことを選ぶ。	議題の共有化 ・話し合う議題を事前に知らせる。(帰りの会、背面黒板など) ・「にこにこかいぎアンケート」を行い、自分の考えをもつ。

活動の実際

活動内容	考察
<p><議題の収集・選定></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「ぎだいいねがいカード」を配付し話し合うことを集める。 ◆「ぎだいいねがいカード」を基に話し合うことを決める。 <p>「ぎだいいねがいカード」 つぎの「にこにこかいぎ」で、はなしあいたいことをかいてみましょう。</p>	<p style="text-align: center;">子どもたちから話し合いたいことを集める</p> <p>自分が出した提案を議題に取り上げてもらうことは、児童生徒にとってうれしいことだと考える。また、自分たちの関心のあることについて話し合うことができるので、アンケート問14の結果からも活発な意見交換が期待できる。</p>
<p><計画委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆司会、副司会、黒板記録、ノート記録の役割分担を決める。 ◆話し合いの流れを確認し、見通しをもつ。 ◆提案者に提案理由を確認する。 <p>～教師の話より～ 司会の児童に「はなしあいのすずめかた」を基に話し合いの流れを説明した。司会者の児童は自宅にプリントを持ち帰り、熱心に練習をしたということを保護者から聞き、とてもうれしく思いました。</p>	<p style="text-align: center;">司会・記録を輪番で担当できるようにする</p> <p>年度当初にやってみたい役割(司会・記録)を募集し、役割ごと順番を決め輪番で担当することにより、意欲をもって話し合いに臨むことができた。また、話し合いの流れを確認することで、見通しをもって活動することにつながった。</p>
<p><議題の共有化></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆話し合う議題をみんなに知らせる。 ◆「にこにこかいぎアンケート」を行い自分の考えをもつ。 <p>「にこにこかいぎアンケート」 どんなおたのしみかいいにしたいですか。 わけ どんななまえのおたのしみかいいにしたいですか。 わけ おたのしみかいいで、どんなことをしたいですか。 わけ つぎのにこにこかいぎのじぶんのめあてはなんですか。</p>	<p style="text-align: center;">議題を伝え、自分の考えをもたせる</p> <p>アンケート問14から、自分の意見に自信があるときに、発言しようと思うことがわかる。したがって事前に議題を伝え自分なりに考えをカードにまとめておくことで、発言が多くなった。また、何を書くかわからないと質問に来た児童に説明するといった個への指導も行うことができた。さらに日頃あまり発言しない児童も自分の考えをカードに書いてあるので、発言するようになった。このことから事前に意見をカードにまとめておくことは大変有効である。</p>

まとめ

本時の話し合いの成否を決めるのは、教師の事前指導によるところが大きい。上記のように児童生徒の思いを生かした議題を設定し、事前に議題を伝え自分の考えをまとめておくことはとても重要である。そうすることで、「早く話し合いがしたい」と意欲が高まり、発言が少なくて困るということはなくなる。また、司会グループへの指導により、話し合いの見通しをもち、自信をもって取り組むことができる。このように、教師の事前指導を踏まえた話し合いを積み重ねることが、自発的、自治的な態度をはぐくむことにつながると考える。

活動記録 多数決に頼らない集団決定の指導

話し合いの実態や課題

～児童生徒アンケートより～

問5 話し合いの決め方で多いものは何ですか

	小3	小6	中3
多数決	50.8%	64.1%	86.3%
じゃんけん	0.8%	2.0%	1.4%
先生が決める	2.4%	0.0%	0.0%
みんなの意見をまとめる	45.2%	33.3%	12.3%

～教師アンケートより～

問13 話し合いで困っていること

すぐに多数決をとろうとする。(小34.1% 中46.4%)

問8 集団決定で心がけていること

多数決をできるだけさける。
少数意見を大切にし、意見のよい点を取り上げる。
納得するまで話し合う。

望ましい話し合い

指導の工夫	多数決に頼らない集団決定を行う	取り上げられなかった少数意見も生かす
活動内容	柱1 お楽しみ会の名前を決めよう	

活動の実際

授業記録の抜粋

なかよし たのしい ふざけない げんきいっぱい みんなの
 (お楽しみ会の名前の候補が5つ出された。その意見に対して賛成→赤いマグネット、反対→青いマグネットをつけてある。)

T いろいろ意見がでたから、お楽しみ会の名前をみんなどうやって決めたらいいと思う。

C ふざけないお楽しみ会は賛成がないから。

C たのしいお楽しみ会じゃないの。

C なかよしお楽しみ会がいい。 (口々につぶやいている)

T こういうときにどういうふうに決めたらいいの。これに賛成の人。と聞くのを「多数決」っていうんだけど、多数決で決めちゃっていい。

C いいよ。 (約半数の児童が答える)

T じゃあ、きょうはにこにこ会議だと、違う意見を出した人はにこにこになれる。

C なれない。

T 先生ひとつ注文があるの。

T これじゃお楽しみ会の名前が決まらないからこれとこれ合体してもいいとか、やっぱりこれがいいなとか、1つのほうにまとめられる意見を言ってくれる。できたら多数決じゃなくて。

C やっぱり合体したほうがいいんじゃないの。(あちこちで意見をいう。)

司 それでは近くの人と1分相談してください。(教師の助言あり)

T 友達の意見でいいなあと思ったら拍手をしてください。

C げんきいっぱいとかのしいお楽しみ会を合体させればいいと思います。
 <拍手多数>
 (げんきいっぱい、たのしいという意見が多数出される)

T 「げんきいっぱい」と「たのしい」が多いので、それに決めていいか聞いてみて。

司 げんきいばいたのしい会に決めていいですか。

C いいですよ。

げんきいばいたのしい会 ~集団決定~

C ええー。やだー。(2, 3人の児童)

T せっかく出してくれたから、みんなの、なかよし、ふざけないっていう意見を、げんきいっぱい楽しい会の約束の中に入れるのはどうかな。

C ーうなずくー

考 察

複数の意見の中から決定する方法を考えさせる

反対意見の出ている名前ではなく、賛成意見の多い名前にしたほうがよいと考えている児童が多いようであった。マグネット(赤→賛成 青→反対)などがあると、意見に対する賛成反対が低学年でもわかりやすい。

多数決に頼らない集団決定の方法を考えさせる

今回の話し合いで初めて「多数決」ということを児童に伝えた。教師の提案なので、多数決でいいという児童が半数近かった。それに対して「違う意見を出した人はにこにこになれる」と揺さぶりをかけたところ、しばらくだまって考えていた。そこで、できるだけ多数決に頼らずに「自分もよく、みんなもよい」という、たくさんの意見を取り入れた決定の方法を提示している。それに対して児童は2つの意見を合体させればよいとの意見を出し、多くがその意見に賛成した。

児童は教師の投げかけにより、できるだけたくさんの友達が「にこにこ」になるにはどうすればよいかを考え、友達のよい意見をさがし、自分の意見を修正していった。

このように、小学1年生という話し合いの入門期においては、すぐに多数決に頼るのではなく、**意見を出す 比べる まとめる 決定する**という過程で、多数意見の不備を補い、少数意見の長所を生かすなど、出された意見を生かし折り合いをつけながら集団決定をすることが、一人一人の児童の思いを取り入れた話し合いになると考える。

取り上げられなかった少数意見を生かす

自分の意見と異なる決定に対して不満をもっている児童が少なからずいるはずである。

よって今回は、取り上げられなかった「なかよく」「ふざけない」「みんなの」という意見を集会の約束(振り返りの項目)にした。自分の意見が生かされたことで、「意見を発表してよかった」という満足感をもち、次回の話し合いの意欲にもつながると考える。

1年生という話し合いの入門期において、本音を発言することははずかしくない、友達の発言を笑わない、話し合いは楽しいということをたくさん経験させたい。しかし一方で、「意見が取り上げられなくてもがまんする」という経験も、社会性をはぐくむ上で必要なことである。

まとめ

児童生徒アンケート問5、教師アンケート問13から、中学校の方が多数決で集団決定をすることが多くなることがわかる。多数決が必要なときも確かにある。しかし、『自分もよく、みんなもよい』という視点で、「納得するまで話し合う」「少数意見をできるだけ生かす」という過程を踏み、折り合いをつけながら学級の総意として集団決定することが重要だと考える。小学1年生という話し合いの入門期に、教師が上記のような話し合いの意義を伝え、児童と一緒に話し合いをつくっていくことが重要である。

(3) 中学校の実践(中学3年生)

中学校の話し合いの実態を踏まえた指導の工夫

学年が進むにつれて「話し合いの活動」を好きではなくなるという実態は前述のとおりである。さらに、進んで発言しなくなる(表5)という中学生の実態同様、教師も「話し合いで発言が少ない」(58.9%)という悩みをもっていることがわかった。そこで本研究会議では、話し合いで発言しなくなる理由を探るために中学3年生(73名)に実施した調査(12月)で、小学校での話し合いで印象に残っていることを尋ねたところ、よい印象をもっている生徒が少ないことがわかった(表6)。また、「話すことが好きで

はない」と回答した生徒にその理由を聞いたところ、「人前で話す緊張する」「自分の言いたいことがまとめられない」という回答が多かった。しかし、中学生も発言したいという気持ちをもっていると考え、話し合いを活発にするために3つの指導の工夫を試みた(表7)。さらに、3つの指導を実施することで、望ましい話し合いの活動の3つの要素を高めることもめざした。また、今回の中学校の話し合いで課題として残ったことは、議題を生徒から吸い上げる、あらかじめ自分の意見をまとめるということである。

表5 いつも進んで発言しますか

問3 いつも進んで発言しますか			
	小3	小6	中3
進んでする	31.0%	12.4%	6.8%
ときどきする	35.7%	42.5%	24.7%
あまりしない	20.6%	30.7%	41.1%
しない	11.9%	13.1%	26.0%

表6 小学校における「話し合いの活動」の印象

小学校における「話し合いの活動」の印象 (12月調査より)
・かたくなるしい。悪いことをしたときの反省。
・けんかしたときの仲直りのための話し合い。
・多数決が多かった。ある一部の人しか話さなかった。
・毎日の説教。必ず意見を言わされて、つらかった。
・みんなが楽しく話しながら、よい感じに進む。

表7 話し合いを活発にするための指導の工夫

話し合いを活発にするための指導の工夫	望ましい「話し合いの活動」の3つの要素との関連
1) 話し合いの前に心をほぐす活動を行う	話し合う意欲
2) 少人数による話し合いを入れる	話し合いの資質・能力、話し合う意欲、認め合える学級集団
3) 自己評価、相互評価を行う	話し合いの資質・能力、話し合う意欲、認め合える学級集団

- 1) 話し合いの前に心をほぐす活動を行う 小学校では、話し合いの直前に気持ちをリラックスさせ、学級の雰囲気や和ませるために歌やミニゲームなどを実施することが多い。そこで中学校においても心をほぐす活動を行うことで、発言しやすい学級の雰囲気にするのではないかと考えた。
- 2) 少人数による話し合いを入れる 小学生と比較して、中学生では友達と相談する時間がほしいという回答が多いことから、全員での話し合いでは意見が出にくい、少人数での話し合いを取り入れたときに活発な話し合いが行われるのではないかと考えた。
- 3) 自己評価、相互評価を行う 話し合いを行う際に、「本時のめあて→振り返り→次時のめあて」を書いて自己評価を行うことで、話し合いに関して身につけていること、身につけていないことが意識化されて考えが深まり、話し合いの資質・能力が高まると考えられる。また、相互評価を行うことでも、話し合いの資質・能力が高まり、互いに認め合える集団をはぐくむことができると考えた。さらに、自己評価や相互評価を行い、次時のめあてをもつことで、発言しようとする意欲も高まると考える。

「話し合いの活動」の授業の実際

表8 中学校で実施した話し合いの比較

中学校で実施した話し合いの比較			
議題	体育祭のスローガン	合唱コンクールのスローガン	2学期を振り返り、3学期のめあてをもつ
実施時期	6月	9月	12月
人数など	4~5人・偶然のグループ	5~6人・生活班	1人・個人
座席の配置	班会議型	班会議型	一斉授業型
心をほぐす活動	誕生日チェーン	後出しじゃんけん	トラストフォール
決定事項	バナナがあればなんでもできる 我らの団長 ○○軍団	Our Melody ~未来に広がるHarmony~	・みんなが楽しく過ごせるように、 行事を行って気分転換する。 ・協力しながら一日一日を大切に過ごす。

1) 話し合い前に心をほぐす活動を行う～指導の工夫～

実施した活動は第1回、「誕生日チェーン」(話をせずに身振りなどで、誕生日ごとに4月から1列に並ぶ)、第2回「後出しじゃんけん」、第3回「トラストフォール」(2人1組になり、1人が背中から後ろに倒れ、もう1人が支える。信頼関係の大切さに気づく)を行った。3回の話し合い終了後の調査では、「気持ちがほぐ

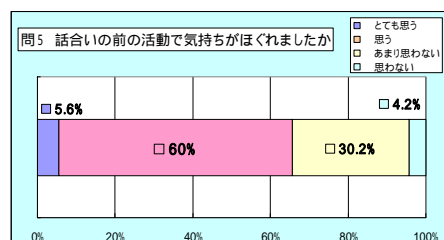


図6 話し合い前の活動と生徒の意識

れた」との回答が 65.6%を占めた（図6）。生徒の感想（表9）にもあるように、話し合い前にこのような活動を行うことで気持ちがほぐれ、意欲的に話し合いに取り組めた生徒が多いといえる。課題としては、話し合いの内容やクラスの実態に合わせて心ほぐしの活動を選ぶこと、肝心な話し合いの時間を減らすことのないように短時間で実施できる活動の工夫などが挙げられる。

表9 話し合い前の活動の感想

- ・ 明るい雰囲気での発言しやすくなった。
- ・ みんなが楽しい気持ちになってわくわくした感じで話げできた。
- ・ 緊張した話し合いだと自分から意見を出しにくいけど、リラックスしたので意見を出しやすかった。
- ・ 話し合うときには切り替えてからなので、そこまでほぐれないと思う。
- ・ 普通に話し始めてもこのクラスなら意見がでるような気もするけど、普段話しにくい人は良かったのでは。

2) 少人数による話し合いを入れる ～指導の工夫～

第1回「体育祭の学級スローガンを決めよう」と第2回「合唱コンクールの学級スローガンを決めよう」では、少人数によるグループ中心の話し合いを実施し、第3回「2学期を振り返り、3学期の目標を決めよう」では議題に合わせ、全員での話し合いの中に、少人数の話し合いを数分間取り入れた。話し合い終了後、振り返りカードの「意見は出しやすかったですか」には、第3回の話し合いが意見を出しにくかったとの回答が多かった（図7）。1, 2回がグループで話し合ったことを代表者が発表するという流れだったのに対して、第3回は個人での発表を前提としていて、少人数の話し合いは途中のわずかな数分間入れただけだったため、意見を出

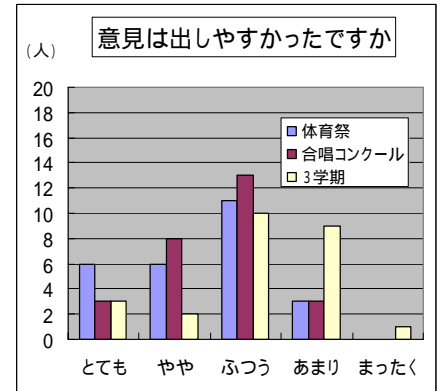


図7 意見の出しやすさの比較

しにくかったのではないかと考える。少人数による話し合いを取り入れたことによる話し合いの3つの要素の変容は、全員が話し合いに参加することや司会・記録を体験することで話し合いの資質・能力が高まり、そのことが意欲的な話し合いにつながり、自分と友達の考えを比較することで、互いの考えを認め合えるようになったことである。また、実践のなかで明らかになった指導上の留意点は、グループでの役割分担を明確にする、決定事項を導くのではなく意見交換の場とする、教師が各グループに入り助言をするなどである。

表10 少人数の話し合いの感想

- ・ 各組で考えてそれをもとにいろいろな意見を出すことができました。 (第2回)
- ・ 4人くらいの少人数で話しやすかった。 (第1回)
- ・ 班で話し合ったので意見交換がいつもよりたくさんできた。 (第2回)

3) 自己評価、相互評価を行う ～指導の工夫～

【自己評価について】

学級活動カード（表11）には自分の意見と友達の意見を書く欄を設けた。共感できた友達の意見を聞いて、自分の考えを深められるようにするためである。話し合いを重ねるごとに、友達の意見を取り入れて新たな考えを導き出す生徒が増えた。

終末の自己評価では、①自分の考えをもつ②意見を発表する③友達の話を聞く④「自分もみんなもよい」解決方法を考えるという項目を、5段階で表すようにした。また、⑤を空欄にし、自分のめあてを記入できるようにした。さらに自由に記述できる欄を設け、生徒の思いを汲み取ることができるようにした。最後に次回のめあてを記入し、話し合いにおける自分の課題が明確になるようにした。

表11 学級活動カード

学級活動カード		3年組 名前()	
議題 2学期の振り返り3学期の生活の目当てを持つ			
自分のめあて 自分意見をしっかりと持ち、その意見を発言する。			
自分の考え みんなが楽しく笑えるのが嬉しい	新しい自分の考え 残り少ない1学期から、1日1日を大切に今までの反省を生かしてみんなが楽しく笑えるのが嬉しい!		
友達の考え(共感した考えなど) 「目標を大切に、今までの反省を生かして残りの日を頑張ろう。行事もみんなの力を合わせて頑張ろう。」			
～今日のふりかえり～			
① 自分の考えをもつことができた。	OK <input type="checkbox"/>	② 自分の考えを発表することができた。	OK <input type="checkbox"/>
③ 友達の考えを、相手の思いを理解しながら聞くことができた。	OK <input type="checkbox"/>	④ 「自分もみんなもよい」解決方法を考え、発表することができた。	OK <input type="checkbox"/>
⑤ 自分のめあて 自分意見をしっかりと持ち、その意見を発言する。	OK <input type="checkbox"/>	⑤ 今日のふりかえり	OK <input type="checkbox"/>
今日のふりかえり理由		理由	
話し合いを振り返って今日の話し合いを振り返ると、みんなの意見や気持ちからなりやすくなった。みんなの意見や気持ちを大切にすることができた。とても良かった。みんな、頑張ろう。		話し合いを振り返って、みんなの意見や気持ちを大切にすることができた。とても良かった。みんな、頑張ろう。	
次回のめあて 次回も今日のふりかえりに「良かった」と思ったら、次回も頑張ろう。			

表 12 は、第 3 回の話し合いで「本時のめあて→振り返り→次時のめあて」の変容に関連性が見られた生徒の学級活動カードの中から抜粋したものである。生徒 A の本時のめあては話すこと聞くことであったが、話し合いで達成できていたため、友達が話せるような空気をつくりたいと周囲に目が向いためあてに変化している。生徒 B は、友達の意見を聞くことにより、「いろいろな意見をもつ」というめあてを達成できたと、話し合いのよさを感じている。生徒 C は反対の意見が出たことがよい話し合いであるとし、様々な意見を出し合うという話し合いのよさを実感している。自己評価の実施で、多くの生徒に話し合いの 3 つの要素のうちの、話し合いの資質・能力と話し合う意欲の高まりが見られるようになった。今後の課題としては、生徒が 2 種類のめあて「①話し合いの技能（例：友達の話を聞き、発言する）、②話し合いの内容（例：卒業まで悔いのないように取り組む）」を書いていたことが挙げられる。よって①話し合いの技能のめあて②話し合いの内容のめあてを書いてから話し合いに臨むことが必要であると考えられる。

表 12 めあてと振り返り

生徒	本時のめあて	ふりかえり	次時のめあて
A	他の人の話をよく聞き、積極的に意見を言う。	ちょっと意見が出しにくかったのが残念。わたしだけバンバンいってもしょうがないし。 <u>周りの人ももっと話せるとうよかったかな。</u>	周りの人が話しやすい空気をつくれればいんだけど・・・
B	いろいろな意見をもてるように	みんなの前で自分の意見を発表できて良かったです。 <u>いろいろな人の意見を聞くことによって、自分のめあてを達成できました。</u>	今回よりももっと向上する。
C	相手の考えを聞く。	発言をしないで他の人の意見を聞くだけになってしまった。 <u>反対する意見も出て、いい話し合いだったと思う。</u>	進んで発言をする。

【相互評価について】

小学校と同様に、中学校でも話し合いの振り返りの際に【今日のピカリ】として相互評価を行い、互いのよい点を学習カードに記入した。司会や記録のがんばりを記入したものが多かったが、出された意見をまとめて新しい意見を考えたよさを書いた生徒もいた（表 13）。相互評価を行うことによる変容は、①話を聞く姿勢が身についた、②話し合いのよい態度や活動を意識するようになった、③学級に認め合う雰囲気が見られるようになった、ことであり、

表 13 相互評価の記入例

相互評価を行う効果は大きいと考えられる。

- ・意見を聞いて、それをまとめてスローガンを作っていた（第 2 回）
- ・班の中での話し合いで積極的に意見をいっていた。（第 2 回）
- ・黒板にみんなの意見をがんばって書いていた。（第 2 回）
- ・司会が一生懸命で、みんなをまとめよい話し合いができた。（第 3 回）

中学校の実践における変容と考察

ア 授業前後の調査（6月、12月）からの意識の変容

3 回の授業の前後（6 月、12 月）に調査を行ったところ、問 1 「話し合いの活動が好き」（好き、どちらかというと好き）の合計が 42.2% から 44.1% になった。数値的には著しい変容は見られなかったが、その理由には望ましい変容が見られた（図 8）。①自分の考えが話せるから、②自分たちで自分たちのことが決められるから、③みんなの意見が聞けるから、がいずれも約 5 ポイント増加し、⑥自分の意見が決められない、は約 7 ポイント減少した。また、問 4 「話し合ってよかったことがある」は約 6 ポイント増加しており、話し合いのよさを感じてきている生徒が増えている。しかし、「話すことがきらい」という回答は減っていないので、教師は日頃から生徒のよい発言を認めるという意識をもつ必要があると考える。

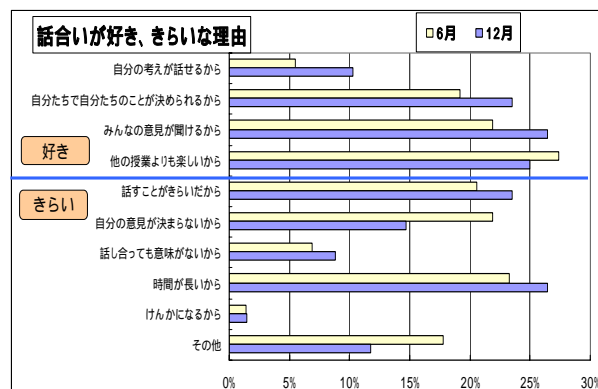


図 8 話し合いが好き、きらいな理由の変容

イ 子どもの振り返りからの変容と考察

自己評価の自由記述からは、個や集団に望ましい変容が生じていることが読み取れる。個の変容では実際に司会を体験することで大変さを感じながらも達成感を味わっており（表 14）、集団の変容では、話し合いを行うことで、学級の団結力や信頼感を感じるようになった（表 15）。

◆司会を体験することで達成感を感じている。 表 14 話し合い後の振り返り 1

今日は自分からというよりほとんど司会の方で指名するという形だったけど、いい話し合いだったと思います。
本当に司会は大変な仕事だと改めて感じました。となりに〇〇くんがいたおかげで色々とお助けしました。（第3回）

◆学級のよさを意識するようになった。 表 15 話し合い後の振り返り 2

- ・意見は少なかったけど、一組らしい意見もあり、よい意見が多くてよかったです。（第3回）
- ・今日のような話し合いをすることによって、みんなの目標や気持ちが一つになり、前よりももっともっとみんなの団結や信頼が生まれてきたので、とても良かったです。（第3回）

ウ 中学校の実践の考察

「発言が少ない」という中学校の課題を改善するために、指導1)～3)を中心に実践を行ったことが、①話し合いの雰囲気よくなり、②話し合いに参加できるようになり、③課題を意識するようになったという変容につながった。また、今回教師が3回の話し合いの助言で強調していたことは、「学級目標の『みんなが輝く』ためにはどうすればよいかを意識して話し合う」ということであった。生徒は体育祭や合唱コンクールのスローガンを決めることで学級としての目標をもち、目標に向かい協力して活動できたと感じたからこそ、学級に対する所属感や連帯感をもつことになったといえよう（表 16）。以上のことから、望ましい「話し合いの活動」と決定事項を実践することによる達成感が、「好ましい学級集団」をはぐくむことにつながると考える。

表 16 合唱コンクールの感想

「すっきり」した 合唱コンクールでは、アンコール賞と最優秀賞を取ることができなくて、すごく悔しかったけれど、なんか「すっきり」しました。練習の段階では全員がまだ本気モードじゃなかったから少し不安もあったけれど、当日はみんな気が入っていたのでよかった。本番ではみんなの心が一つになったから今までで一番よい歌が歌えたのだと思いました。私は順位も大切だと思うけど、みんなが頑張れたかどうかの方が大切だと思います。私にとって今までで一番良い合唱コンクールになりました。 「Our Melody ～未来に広がるHarmony～」感想文集より

研究のまとめ

1 研究から見えてきたこと

話し合いの資質・能力、話し合う意欲、認め合える学級をはぐくむことが、望ましい「話し合いの活動」につながり、小・中学校で望ましい「話し合いの活動」の経験を積み重ねることが、児童生徒の自発的、自治的態度をはぐくむことが見えてきた。研究を通して見えてきたことを（1）～（4）として具体的に記す。

（1）「話し合いの活動」の資質・能力の高まり

小・中学校における実践を通して、本研究会議で作成した「話し合いの活動」で育てたい資質・能力を基に教師が指導や評価を行い、児童生徒が自己評価や相互評価をすることにより、話し合いの資質・高まりが見られた。また、アンケート結果や「話し合いの活動」で育てたい資質・能力を基に小・中学校において授業を実践し、検討を重ねて「『話し合いの活動』指導のポイント 15」にまとめた（表 17）。今後児童生徒が話し合いの経験を積み重ねることにより、さらに資質・能力が高まると考える。今回作成した育てたい資質・能力、指導のポイントに修正を加えることで、より児童生徒の実態に即したものにしてい

<p>話し合いの土台をつくる（一人一人が意見を言いやすい学級づくり）</p> <p>司会・記録をできるだけ全員が体験できるように輪番制にする</p> <p>「話し合いの活動」関連グッズをそろえる（学習カード、黒板掲示物など）</p> <p>児童生徒の思いを議題する（議題ポストの設置、アンケートの実施、児童生徒のつづやきなど）</p> <p>話し合いの計画を立てる（計画委員会・プログラム委員会）</p> <p>話し合いのルールを確認する（話の聴き方、発言の仕方、意見の種類）</p> <p>話し合いの山場（対立点やポイント）を確認する</p> <p>事前に議題を伝え、意見をもたせる（学習カードなどに自分の意見をまとめる）</p> <p>話し合いの場を工夫する（コの字型、班会議型、一斉授業型など）</p> <p>話し合いの前に心をほぐす（歌、ダンス、構成的グループエンカウンター、グループワークなど）</p> <p>何のために話し合うのか、めあてをもつ（話し合うことにより、どのようなクラスにしたいのか）</p> <p>少人数による話し合いの方法を取り入れる</p> <p>多数決に頼らない集団決定をする（意見を出す 比べる まとめる 決定する）</p> <p>話し合いを振り返る（自己評価・相互評価・教師の評価）</p> <p>決定したことを全員が協力して実行する</p>

（2）話し合いの充実感が話し合う意欲をはぐくむ

アンケートの考察から「話し合いをしてよかった」という経験があるほど、話し合いが好きになるという実態が見えてきた。「話し合いで発言できた」「学級の意見がまとまり問題が解決した」という個人と集団の達成感が得られる話し合いを積み重ねることが、話し合う意欲につながると考える。そのためには、今回小・中学校で実践したように児童生徒が発言したいと思うような指導の工夫、「自分もよく、みんなもよい」という集団決定にする指導の工夫をする必要がある。そして、話し合いの最後には話し合いの成果を認め、課題に対する励ましを心がける必要がある。さらに、自分たちで話し合っただけで決定したことを実践できたという自発的、自治的活動の積み重ねが話し合う意欲をはぐくむと考える。

（3）話し合いを通して人とかかわる力をはぐくみ、認め合える学級をつくる

望ましい話し合いと認め合える学級とは相互補完的な関係であることがわかった。望ましい話し合いが認め合える学級をつくり、認め合える学級であれば望ましい話し合いが成立するといえる。また、望ましい話し合いを通してはぐくまれる人とかかわる力は、「自分の意見を発表する、相手の思いを考えながら意見を聞く、『自分もよく、みんなもよい』という問題の解決方法を考える」というものである。

事前・事後の活動を重視し、考えの違いを越えて集団決定をするという話し合いが、人とかかわる力をはぐくみ、認め合える学級をつくるということを常に頭において実践に臨む必要がある。

（4）小・中学校における「話し合いの活動」の在り方

1年間の研究会議の話し合いで、小・中学校の「話し合いの活動」の実情を理解し合うことの大切さを強く感じた。研究会議を重ねるごとに、小学校の「望ましい体験を積み重ねる」と中学校の「自己を生かす能力を養う」ことの重要性が見えてきた。また、中学校ではリーダーを育てたいという思いが強いこともわかった。しかし、中学校においても、可能な限り多くの生徒が司会・記録の体験をすることの重要性を指摘しておきたい。さらに、話し合いの指導をする際に大切なことは、児童生徒の話し合いに対する経験や実態を直接確認した上で、適切な指導を行うということである。したがって、小・中学校の実情や児童生徒の実態を把握しながら、小・中学校9年間を通して望ましい「話し合いの活動」の経験を積み重ねることが、自発的、自治的態度をはぐくむことにつながると考える。

2 今後の課題

（1）より一層の自発的、自治的な「話し合いの活動」をめざして

小・中学校における学級活動の年間時間数は35時間である（小1は34時間）。その中でも自発的、

自治的活動が行われる学級活動（１）の時間は、年に 10～20 時間程度であろう。限られた時間の中で、より一層の自発的、自治的な「話し合いの活動」をめざすために次のことが課題として挙げられる。

- ・ 議題を発見する目を養う方法の検討。（問題意識の持たせ方、話し合う必要のある議題の選び方）
- ・ 議題を精選する方法の検討。（児童会、生徒会など学校からの議題、学級の実態に応じた議題の中から）
- ・ 計画委員会、プログラム委員会（話し合いの準備活動）を効率的に実施する方法の検討。

（２）評価方法の工夫

本研究会議において「話し合いの活動」で育てたい資質・能力を提案したが、児童生徒の実態に応じて修正することが必要である。また、評価の在り方については、今回実践した学級活動（振り返り）カードを基にした評価だけではなく、評価補助簿などを活用した評価方法についても今後さらに検討する必要がある。

最後に、研究を進めるに当たり、アンケートに協力していただいた皆様、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 梶田勲一 『自己意識の心理学』東京大学出版会 | 1988年 |
| 岡田 弘 編『教師と成人のための人間づくり・第5集』瀝々社 | 1999年 |
| 門脇厚司 『子どもの社会力』岩波新書 | 1999年 |
| 新富康央 編『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房 | 2001年 |
| 宮川八岐 編『特別活動 基礎・基本の充実と学習指導の実際』東洋館出版社 | 2002年 |
| 宮川八岐 編『個性を生かす教育と集団指導』教育出版 | 2003年 |
| 有村久春 『キーワードで学ぶ 特別活動 生徒指導・教育相談』金子書房 | 2003年 |
| 「特別活動研究」明治図書 | 2004年3月～2006年3月 |
| 宮川八岐 編著『「特別活動」実践チェックリスト』教育開発研究所 | 2005年 |
| 杉田 洋 「初等教育資料」東洋館出版社 | 2005年2月 |
| 「児童心理」（特集：コミュニケーション力を伸ばす）金子書房 | 2005年7月 |
| 文部省 小学校特別活動指導資料「新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫」 | 1995年 |
| 文部科学省 「学校教育に関する意識調査」 | 2003年 |
| 文部科学省 「特別活動実施状況調査」 | 2004年 |
| 全国特別活動研究会「特活の研究42号」 | 2004年 |
| 川崎市教育委員会「小学校 一人一人の個性を生かす学習指導評価の資料Ⅱ」 | 2003年 |
| 川崎市教育委員会「中学校 「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価Ⅱ」 | 2003年 |
| 川崎市総合教育センター「平成17年度川崎市小・中学校教育基本調査」 | 2005年 |

【指導助言者】

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 東京聖栄大学助教授（川崎市総合教育センター専門員） | 岡田 弘 |
| 昭和女子大学教授 | 有村 久春 |
| 川崎市立小学校特別活動研究会長（川崎市立南百合丘小学校長） | 高橋 学 |
| 川崎市立中学校教育研究会特別活動部会長（川崎市立長沢中学校長） | 渡辺 直樹 |
| 川崎市総合教育センター指導主事 | 江間 薫 |